

甲賀の國づくりプロジェクトー甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略ー 概要版(素案)

人口ビジョン策定に係る概況 (平成 22 年国勢調査ベース)

超高齢者社会・急速な人口減少の到来。
地区別では土山地区、甲賀地区、信楽地区の過疎化の進展。

【総人口】

- 人口は約 9.2 万人。人口減少の局面を迎えている。
- 水口地区、甲南地区は人口増加、土山地区、甲賀地区、信楽地区では人口減少。
- 市の高齢化率は 22.1%、土山地区、甲賀地区、信楽地区では高齢化が進んでおり、高齢化率 25%を超えている。

出生率は 1.48。国 1.38 より高く、県 1.54 より低い。
年代別では 20 代の転出超過が最多 230 人程度。
子育て世帯は転入超。
30-34 歳の男性の約 4.5 割、女性の約 3 割が未婚。

【人口動態】

- 平成 16 年以降、人口減少が続いており、ここ数年は毎年 370 人前後の人口減が続いている。
- 合計特殊出生率は、1.48 (国 1.38 県 1.54)。
- 30-34 歳の男性の約 4.5 割、女性の約 3 割が未婚。
- 転入者、転出者ともに県内他市町よりも県外が多い。
- 年齢別では男性、女性ともに 20-29 歳の転出超過が最も多く、男性が 92 人、女性が 138 人。
- 0-9 歳のみ転入超過となっており、子育て世帯が転入している。

一次産業の就業者は 20 年で半減。産業別就業者は製造業が最多で約 3.5 割、次いで卸売業、小売業が約 1.5 割。
甲賀市で就業する市民は約 7 割であり、毎年減少傾向。
市内に 20 代、30 代女性の就業場所が少ない。

【通勤・通学流動】

- 女性は 20-29 歳の昼夜間人口比率が 100 以下であり、市内でのこの年代の従業・通学地が少ないことに起因する。
- 甲賀市に居住する就業・通学者のうち市内に従業・通学する者は約 7 割。他市町へ従業・通学する割合が増加傾向。

【産業】

- 就業人口は平成 22 年調査で減少に転じ約 4.3 万人
- 20 歳代後半から 30 歳代の女性の就業率が高い。
- 産業別就業割合は、製造業が最も多く約 3.5 割、次いで卸売業、小売業が約 1.5 割、医療・福祉が約 1 割。
- 宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉では、女性就業者が 6 割から 7 割を占める。
- 全国と比較し、製造業、鉱業、採石業・砂利採取業が多く、情報通信業、宿泊業・飲食サービス業などのサービス業が少ない。

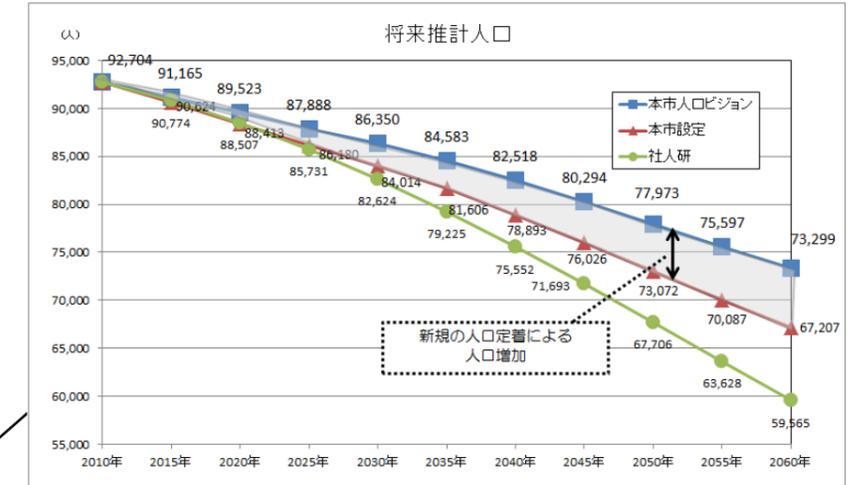
「人口」の考え方

【国の考え方】

- 2060 年に 1 億人程度の人口を確保する。
(現在の状況を踏まえた推計では 2060 年に 8,674 万人)
⇒出生率を 2030 年に 1.8 (国民希望出生率)
2040 年 2.07 程度 (人口置換水準)
- 自治体の人口ビジョン策定にあたっては、地域の自律・持続を踏まえて策定。

【甲賀市の考え方】

- 出生率 2025 年：1.80 2030 年：2.00
2040 年：2.07
- 市全体で毎年 100 人の転入をめざす。
- 急激な人口減少を避け、2040 年：82,000 人、
2060 年：73,000 人 (社人研推計：59,000 人) とする。



【人口減少が進む3つの要因】

- 要因① 既婚率の低下
 - 要因② 夫婦あたり出生率の低下
 - 要因③ 若年女性の絶対数の減少
- 負のスパイラルによる、急激な人口減少

特筆すべき8つの「課題」とその「対策」

- 女性の就業率は高いが、合計特殊出生率が低い。
⇒子育てしながら働きやすい家庭・地域・職場環境を整える。
- 特に中山間地域での人口減少・高齢化が加速的に進んでいる。
⇒高齢者の健康寿命を延ばすとともに、高齢者を“貴重な人財”として職場・地域で活躍していただく。
⇒人口減少問題を地域と共有し、移住施策を充実する。
- 20 歳から 29 歳の転出者が多く (男性 92 人、女性 138 人)、特に女性の流出が顕著である。
⇒今いる市民を“逃がさない”もしくは“市外へ出て行っても、いつか帰ってきていただく”支援を行う。
- 20 歳代、30 歳代の未婚者が増えている。
⇒若者の結婚希望を叶える支援を行う。
- 東京、大阪など大都市圏へ多くの若者が流出している。
⇒近隣地で通勤、通学しやすい環境を整える。
- 市内の就業人口 (特に 20 歳から 24 歳) は減少しており、市外で働く傾向にある。
⇒市内企業の魅力を伝えるとともに、若者が希望する職種を創設する。
⇒市内住民が市内で就業しやすくなるような支援が必要。
- 第 3 次産業 (学術研究専門、技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業) の就業割合が低く、希望の多い職種である「事務的職種」とのミスマッチが起こっている。
⇒若年女性が希望する職種を創設もしくは掘り起こす。
- 市内人口の減少と財政的負担の増大。
⇒今後半世紀の人口減少は不可避であると考え、縮小時代の行財政運営にシフトする。

甲賀の國づくりプロジェクトー甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略ー

リーディングプロジェクト

みんなの憧れを集め、選ばれる ^{みやこ} 都をつくる

【其の吉】

世界を「忍者」で魅せる!!
感幸創生プロジェクト

【其の式】

未来モデルの“^{みやこ}都”を創る!!
コンパクト・ピレッジ+ネットワーク構想

基本施策 1

甲賀らしい、市民幸福度の高い「まち」を追求する

基本施策 2

“ふるさと愛”を醸成して「ひと」を育てる

基本施策 3

域内経済の好循環を導いて「しごと」を生み出す